

あなたが輝ける
「働き方」のヒント



一樹百穫

Training talent leads to great profit. 人材の投資は、大きな利益につながる

株式会社 データ・マックス

大豆機能性素材の可能性を追求する リーディングカンパニー

アグリコン型イソフラボン 幅広い機能性を確認

今年7月に設立20周年を迎えたニチモウバイオティックス(株)。同社の前身は水産事業のニチモウ(株)。養殖事業での魚の餌の研究を進めていく過程で、大豆の有用性に着目。独自の技術によって生まれた発酵大豆由来の機能性素材を開発したことが始まり。その後、ニチモウグループの機能性食品原料サプライヤー部門として1999年1月に設立。

現代表取締役の天海智博氏は医学博士で、研究開発部門として同社に入り、大豆由来抽出物の機能性研究に注力。ハーバード大学医学部や京都大学など、国内外の大学・研究機関との共同研究で、大豆のイソフラボンを多く含む胚芽部分を麹菌発酵させることにより、吸収性の優れた「アグリコン型イソフラボン」に変える新技術を開発。この技術から生み出されたのが、アグリコン型イソフラボン(麹菌発酵大豆胚芽抽出物)の「Agly-

Max(アグリマックス)だ。遺伝子組み換えをしていない良質な大豆胚芽に含まれるアグリコン型イソフラボン、ダイゼイン・グリシテイン・ゲニステインの3種類から構成される有効成分。なかでもダイゼインが約70%を占めることを大きな特徴として、日米欧で特許を取得している。

天海代表は大豆イソフラボンについて、「イソフラボンは、女性ホルモンの一種である『エストロゲン』と分子構造がよく似ている。そのため、イソフラボンを摂取すると、体内でエストロゲンと似たような働きをし、ホルモンバランスの乱れによるさまざまな症状の緩和が期待できることが研究で確認されている」としている。

その研究内容についてハーバード大学との研究では、更年期女性のホットフラッシュへの影響を始め、体内でのエクオール代謝における優位性などを発表。また、東京工業大学と豊橋技術科学大学との共同研究では、動物試験による神経切除後の筋萎縮と、加齢性筋減弱症への可能性における機能性研究について、「European Journal of Nutrition



代表取締役 天海 智博 氏

(欧州栄養学会機関誌)」のオンライン版が掲載されたほか、5月には、京都府立医科大学との共同研究で、動物試験で子宮内膜症の治療における研究成果および子宮内膜症間質細胞増殖抑制のメカニズム、子宮内膜症マウスモデルを用いた病変形成抑制を確認。その研究成果は、バイオ関連学術誌「The Journal of Steroid Biochemistry and Molecular Biology」で論文掲載された。



AglyMax-30



麹菌発酵イソフラボン

COMPANY INFORMATION

代表: 天海 智博
 所在地: 東京都港区浜松町1-6-15
 設立: 1999年1月
 資本金: 1億5,000万円
 TEL: 03-6478-5051
 URL: <http://nichimobiotics.co.jp>